

JR 九州・株式上場!完全民営化 悲願達成 JR 九州労組の民主的労働運動の成果!

10月25日(昨日)、JR九州旅客鉄道が東証一部に上場した。1987年の民営化以後、JR東日本、東海、西日本に続く4番目の上場。本州以外の「三島会社」では初めて。発行株数は1億6,000万株。時価総額で約4,160億円となる。

JR九州は社員数約9,000人、資本金160億円。発足以来、本業の鉄道事業で赤字が続いたJR九州は、収益改善に向けて鉄道以外の事業の多角化を推進。駅ビル、マンション、ホテル、外食、小売り、農業などに事業領域を広げた。鉄道事業は、2011年3月の九州新幹線鹿児島ルート¹の全線開業や2013年10月に投入した豪華寝台列車「ななつ星 in 九州」²運行などで観光需要の取り込みに成功した。着実に利益を出せる企業体質となったことから、JR発足30年目を控えた今年完全民営化を実現。



国鉄改革=JR民営化にあたっては国民の負担等、多くのみなさまに支援していただいたことは周知のとおりであるが、会社の発展のために奮闘したJR連合に所属する九州旅客鉄道労働組合 (JR九州労組) 抜きには語れない。九州労組(許斐委員長・組合員約7,900名・組織率約92%)は九州におけるリーディングカンパニーとして、「株式上場」を見据えた将来展望を念頭に「新中期労働政策ビジョン/チャレンジ2018-今後5年の到達目標と株式上場を展望した目標-」に着実に運動を展開してきました。

1992年のJR連合結成以来、民主的な組織運営を通じてJR労働運動の統一と発展をめざし活動。特に、2000年の九州労からの737名大量脱退に際して、JR連合への加入を阻止。現在に至っている。

平成28年4月14日から連続して発生した熊本地震や自然災害による鉄道施設の復旧は今後の課題となる。熊本地震発生当日、JR九州労組は被災された皆さまに対し、様々な支援体制をとるため、中央本部に「熊本地震対策本部」を設置するなど、その対応にむけ先頭に立ち取り組んでいる。

イーストユニオンから鈴木(仙台地本)高橋(中執)が地震ボランティアとして1週間現地で活動した。

**JREユニオンは、JRグループ発展のため
全国のJR連合組合員とともに活動しています**